

日本での仕事も、JMSJを通じて、良く知っています。

問：これから、興味のある分野は？

—やはり、Climate と meso-scale の問題です。climate のなかには、monsoon などの tropical meteorology の問題も含まれます。要するに、low-frequency dynamics が面白いと思います。

問：最後に、若い人達に言いたい事は？

—自己主張をすることです。世間はなかなか新しい知見を認めようとはしません。しかし、それを support する証拠が出て来たりすると、認めてくれるようになります。

ります。いい続けることです。

米中のモンスーンの会議の帰途に、東京に立ち寄ってくれた K.M. Lau は、“Aqua-planet では、30日の周期しか出ないのに、現実では40日の周期が出るのは、やはり、air-sea interaction が重要だ”と話して帰ってゆきました。半年も経つと、それなりに仕事をしてきます。頑張らねば、と、気分も新たにした次第です。

(住 明正)

気象集誌編集委員会からのお知らせ

ページ・チャージの改訂について

気象集誌のページ・チャージは、現在印刷ページで12ページ以内の部分については1ページ当たり5,000円、それを超える部分については刊行実費を負担することとなっています。気象集誌編集委員会では現在の物価状況に対応し、かつ英文校正を含む気象集誌のレベル向上を推進するため、理事会の承認を得て以下の様にページ・

チャージを訂正することとしました。

印刷ページで12ページ以内 6,000円/ページ

印刷ページで13ページ以上の部分 12,000円/ページ

(刊行実費)

上記の改訂は1988年2月号(第66巻, 第1号)掲載分の論文・要報から実施されます。

4年毎のオゾン・シンポジウム開催のお知らせ(2)

IAMAPの国際オゾン委員会(IOC)主催による上記シンポジウムについて、本誌1987年1月号でお知らせしましたが、第2報が来たので要点をお知らせします。

1. 1988年8月8-13日, 西独, Göttingen 大学でシンポジウム(題目は前回のお知らせにほぼ同じ)。
2. 上記シンポジウムに先立ち, 1988年8月4-6日, Göttingen 大学及び近くの Max-Planck Institut für Aeronomie で、「対流圏オゾンに関する workshop」。
3. アブストラクト提出期限 1988年1月10日
完全な原稿の提出期限 1988年6月20日
写真撮影用の原稿をシンポジウム期間中に提出

参加者へのプロシーディングの配布 1988年10月

4. Preregistration, アブストラクト等の連絡・提出先
Dr. Peter Fabian
Chairman Local Organizing Committee
Max-Planck Institut für Aeronomie
Postfach 20
D-3411 Katlenburg-Lindau,
Fed. Rep. of Germany
5. その他詳細は、東京管区気象台 清水正義(IOC委員)まで。

(文責 清水正義)